

林業事業体等若手職員研修会の開催について

1 はじめに

林業の担い手は高齢化・減少傾向にあり、特に若年層の確保・育成が急務です。

一方、令和元年以降、新型コロナウイルス感染症の影響により他者との交流が制限された結果、特に事業体等の若手職員において、仕事に役立つ「出会いやつながり」を持つ機会がほとんどないことが課題となっています。

そこで、管内事業体の採用1～5年目の職員を「次世代の林業の担い手」として育成するとともに、事業体を越えた情報交換や課題共有などに役立つ互助関係を構築するため、若手職員研修会を開催しましたので、情報提供します。

2 研修会の概要

研修会には、森林組合、林業事業体の職員等16名が参加しました。

最初に、参加者全員による名刺交換と自己紹介を行いました。

次に、当センターの中村文治上席林業普及指導員が、震災前後の林業・林産業の変化について講義しました。

その後、いわて林業アカデミー講師の小原孝氏（花巻市森林組合）から、アカデミーでは教えない仕事のコツや心構えについてお話を伺いました。

3 研修会の内容

中村氏は、「林業は成長産業であり、担い手の社会的役割はますます大きくなるだろう」と話し、若手職員への期待を伝えました。

小原氏は、「本気で仕事に向き合い、途中で投げ出さず続けていくこと」の意義を、自分の経験に絡めながら参加者へ語りかけました。

講義後は、山で事故があった場合の救急要請方法や、労災防止に向けた同僚とのコミュニケーションのあり方などについて意見交換を行いました。

4 おわりに

最初はみんな若干硬い表情でしたが、名刺交換と自己紹介の後は、リラックスした雰囲気が進めることができました。

研修終了後には、いわて林業アカデミー卒業生が旧交を温めたり、参加者同士が情報交換をしたりといった姿も見られました。

管内では初めての取組でしたが、参加者へ実施したアンケート結果は概ね好評で、「他の参加者ともっと交流したい」「技術的な話も聞きたい」などの要望も出されました。

当センターでは、これからも若手職員の育成のための取組を進めていく予定です。



【名刺交換の様子】



【講義の様子】